

やってみると 分からん魅力

皆さんは子どもの頃、何になりたいと思っていましたか。就職したとき、どんな思いを抱いていましたか。町内で働く人の体験談や、中高生の職場体験学習を通して、働くことの「やってみると分からん魅力」を一緒に探していきましょう。



職場体験で地元の魅力を発見

8月27日から29日までの3日間、松前中学校2年生の生徒120人が、町内をはじめとした41の各種企業などで職場体験学習を行いました。

これは、合計5日間の同学習を行うことで地域の産業を学び、子どもたちに地元で働く魅力を感じてもらおうと、「えひめジョブチャレンジU-15」の一環として行われたもの。この3日間以外にも、7月に町内保育所や幼稚園で保育実習を行いました（北伊予中学校と岡田中学校の生徒も、同様の学習を10月に実施予定）。

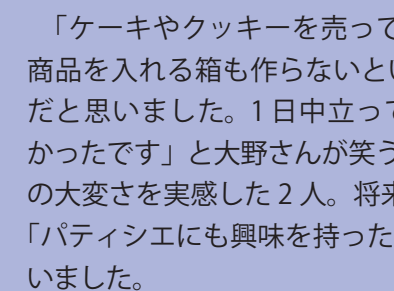
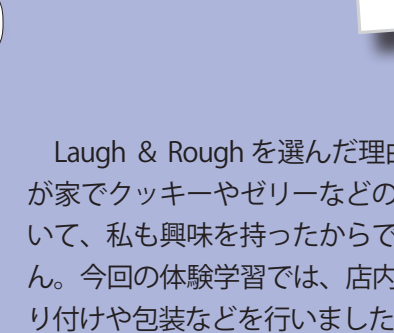
高校生や大学生も将来を考える

7月2日、松前ひまわり保育所で職場体験学習を行ったのは伊予高等学校1年生の生徒7人。2〜5歳児クラスに分かれ、子どもたちと触れ合いながら、保育士の仕事を体験しました。一方松前町役場でも、8月27日から29日までの3日間、大学生に広報紙作成業務の一部を体験してもらうなど、中学生から大学生までが、町内で働くことの魅力について学んでいました。次のページから、体験学習の一部を紹介します。

好きなことをやりがいに

筒井のLaugh & Roughを経営し、パティシエとして働いている泉さん。子どもの頃から自分で作って食べるほど、お菓子が大好きだったといいます。好きなことを仕事にできた今、「お客さんに喜んでもらうことが1番のやりがい。『おいしい』笑顔のためなら忙しくても頑張れる」とほほ笑みます。

今回の職場体験学習を受け、パティシエを目指す子どもたちに対し、「パティシエは、とにかくお菓子が好きじゃないとできない。自分で作ったものを『おいしいね』と食べてもらったときのうれしい気持ちをお客さんに伝える」と話す泉さん。これからも、お客さんのために新しいものを作り続けていきます。



Laugh & Roughを選んだ理由を、「普段から妹が家でクッキーやゼリーなどのお菓子作りをしていて、私も興味を持ったからです」と話す岡本さん。今回の体験学習では、店内の掃除、商品の飾り付けや包装などを行いました。「ケーキやクッキーを売っているだけでなく、商品を入れる箱も作らないといけないので大変だと思いました。1日中立っているのがしんどかったです」と大野さんが笑うように、働くことの大変さを実感した2人。将来の職業について、「パティシエにも興味を持った」と目を輝かせていました。

きらりと光る仕事人
パティスリー ラフ アンド ラフ
Patisserie Laugh & Rough
オーナーシェフパティシエ
いづみ 泉 寛治 さん



私たちが体験しました



松前中学校2年生（写真左から）

大野 心美 さん＝北黒田＝
岡本 咲彩 さん＝北黒田＝



きらりと光る仕事人
 扇屋食品株式会社
 製造部
 きむら ゆり
木村 有里 さん



「製造に興味があった」と話す木村さんは、扇屋食品株式会社に勤めて4年目。珍味や干物などの商品を容器に詰めるなど、製造ラインで働いています。

この仕事を始めてから、「今まで何気なく食べていたものも、作ってもらえてありがたいと思えるようになった」と話す木村さん。商品の奥に生産者や製造者の苦労を感じ、感謝の気持ちを持つようになりました。

一方、工場内の雰囲気の良いさも会社の魅力の一つ。「就職前にはいろんな情報を集めて、自分に合った仕事を」と話す木村さんは、「これからも徹底した衛生管理を当たり前にしながら、良い商品を作っていきたい」と張り切っています。

常に楽しく笑顔で



私たちが体験しました



松前中学校2年生（写真左から）

門田 碧空 さん＝筒井＝
 池田 健人 さん＝宗意原＝

「珍味やイカが好きなので、どうやって作られているのか知りたかった」と話す門田さんに、「ずっと立って仕事をするなんて知らなかった。筋肉痛になりました」と笑う池田さん。扇屋食品株式会社では、珍味や干物を容器に詰める製造ラインを体験しました。

門田さんが、「簡単だと思っていたけれど、スピードが速くて大変だった」と話すように、ふたを締める作業で手にまめができるなど、実際にやってみると難しさがよく分かったといいます。池田さんは今回の経験を生かし、「同じことを根気強く続けられるように頑張りたい」と話していました。

きらりと光る仕事人
 愛媛信用金庫 松前支店
 テラー係
 なりもと しほ
成木 志保 さん



「昔からおじいちゃんやおばあちゃんとお話しするのが好きで、人と触れ合える職業に就きたいと思った」と話す成木さん。愛媛信用金庫に勤めて20年になります。就職した当初は、「自分が想像していた以上に、お金を数える札勘や数字を扱う事務が苦手で、『向いていないな』と思った」と笑う成木さんですが、「やってみたい」と分らない。まずは3年頑張ってみよう」と奮起。人に教えるなどしていくうちにすっかり慣れ、諦めないことの大切さを学びました。

8月から松前支店に転勤となった成木さんは、窓口業務を行うテラー係を担当。いつも笑顔で、やさしい接客を心がけて、「信用金庫はお客さま本位の接客



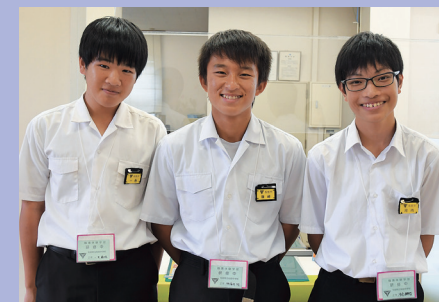
人と人との触れ合いを大切に

が魅力です。銀行より規模は小さいですが、人と人との触れ合いでは負けません」と話します。

将来の職業を選ぶ前に、「いろいろ経験して、何でもやってみたらいいと思う」と話す成木さん。自分自身も、「乗り物関係や動物関係の仕事にも興味がある」と笑いながら、「この仕事が好きなので、これからもお客さまに喜んでもらえる窓口業務を続けていきたい」と意気込んでいます。



私たちが体験しました



松前中学校2年生（写真左から）

一色 覇琉 さん＝宗意原＝
 篠崎 陸空 さん＝新立＝
 河内 獅裕 さん＝筒井＝

愛媛信用金庫を選んだ理由を、「金融機関ではどんな仕事をしているのか知りたかったから」と話す一色さん。実際に体験してみると、「お金だけではなく保険などいろんな商品を扱っていることを知った」と話します。一方篠崎さんが、「お金の回り方を学んだり、たくさんの現金を見たりすることができた」と話すように、体験学習の期間中、日本銀行で40億円もの現金を見するという貴重な体験も一。

今回の体験学習で河内さんは、「地域の人々が相談しやすいのが魅力。金融関係に就職したいという気持ちが強くなった」と将来について考えていました。



interviewer

松山大学
法学部法学科 3 年生

横井 里佳 さん = 松山市 =

大学生が インタビューに挑戦！

インターンシップ期間中、大学生が役場職員にインタビューした様子を紹介します。

きらりと光る仕事人

松前町役場
町民課コミュニティ係
久保 美文 さん



役場職員を目指した理由は何ですか。

元々教師を目指していましたが、教育実習などを体験していく中で「自分には合っていないかも」と感じ、教師と同じく人のために働く仕事がしたいと思って役場職員を目指しました。

仕事を通して感じる松前町の魅力は何だと思いますか。

コミュニティ係で担当している事業や前任の広報業務などを通して感じるのは、「町民がみんな優しい」ということ。松前町は町の規模が小さい分、町民と役場職員との距離が近いと感じていま

す。規模の大きな市町ならではの魅力もあると思いますが、人の温かさに直接触れることができるのが、松前町の魅力だと思います。

大学生のうちにやっておいたらいいことは――。

今思うのは、もつといろんなことを経験しておけばよかったということ。例えば英語や手話ができれば、窓口に来た人を困らせることなくスムーズに対応することができます。自分が経験していないと分からないことが多いので、何事にも興味を持って挑戦していくことが大切です。頑張ってください。

ありがとうございました。



3 日間のインターンシップで、横井さんには写真撮影やインタビューなど広報作成業務の一部を体験してもらいました。30 ページに、横井さんが実際に取材をし、広報編集用のソフトで作成した記事を載せています。ぜひご覧ください。



「就職」は、人生の中で大きな選択の一つです。たくさんある魅力的な職業の中から自分に合った就職先を選ぶ。今回紹介した「きらりと光る仕事人」の皆さんや貴重な体験学習をした生徒たちのように、「やってみんと分かん魅力」に気付けたとき、新しい自分を発見できるのかもしれない。



きらりと光る仕事人
松前ひまわり保育所
保育士
峰岡 瞳 さん

「小さな子と遊ぶのが好きで、子どもの頃から保育士になるのが夢だった」と話す峰岡さんは、町立保育所に勤めて4年目。今年の4月からは、松前ひまわり保育所で0歳児クラスを担当しています。保育士は子どもの命を預かる仕事。「大きな責任を感じ、常に危機感を持っている」と話す峰岡さんは、「指差しができたなど、小さな成長の二つが大きな喜びです」とその魅力を語ります。保育士を目指す学生に対し、「大変なことももちろんあるけれど、それ以上に返ってくる喜びが大きい仕事。ぜひ松前町と一緒に働きましょう」とエールを送る峰岡さん。いつも笑顔で子どもの気持ちに寄り添う保育士を目指します。



子どもの気持ちに寄り添い続ける



私たちが体験しました

小さな子が好きで、体験学習先に保育所を選んだという3人。茂川さんは保育業務を体験後、「想像以上に体力勝負。遊びながらも子どもが人や物にぶつからないかなど集中しっぱなしだった」と話します。一方、「子どもが泣いたり友達とケンカしたりしたとき、自分と保育士さんの対処の仕方が違った。きちんと納得させていてすごいと思った」と振り返る名本さんに、「同時に『こっちにきて』と言われ、みんなに対応するのが難しかった。聞いてもらえなかった子は嫌な気持ちになってしまう」と反省する藤田さん。今回の体験学習を通して、3人それぞれが多くの気づきを得ていました。



伊予高等学校 1 年生 (写真左から)

茂川 怜小夏 さん = 北川原 =
名本 亜矢 さん = 徳丸 =
藤田 結心 さん = 北黒田 =